

役員及び評議員の報酬並びに費用弁償に関する規定

(目的及び意義)

第1条 この規定は、社会福祉法人郁慈会（以下「この法人」という。）の定款第9条及び第21条の規定に基づき、役員及び評議員の報酬並びに費用弁償（以下「報酬等」という。）に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(定義等)

第2条 この規定において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 役員とは、理事及び監事をいう。
- (2) 常勤役員とは、役員のうち、この法人を主たる勤務場所とする者をいう。常勤役員のうち、理事は常勤理事及び監事は常勤監事という。
- (3) 非常勤役員とは、役員のうち、常勤役員以外の者をいう。
- (4) 評議員とは、定款第5条に基づき置かれる者をいう。
- (5) 報酬とは、社会福祉法第45条の35第1項で定める報酬、賞与その他の職務執行の対価として受ける財産上の利益であつて、その名称の如何を問わない。
- (6) 費用とは、職務遂行に伴い発生する交通費、旅費（宿泊費を含む）等の経費をいう。報酬とは明確に区分されるものとする。

(報酬の支給)

第3条 この法人は、役員に職務執行の対価として報酬を支給することができる。

- 2 評議員には、定款第8条で定める金額の範囲内で、報酬を支給することができる。

(報酬等の額の決定)

第4条 この法人の全理事の報酬総額は年間10,000万円以内とする。

- 2 この法人の全監事の報酬総額は、年間100万円以内とする。
- 3 この法人の常勤理事の報酬月額は、別紙「理事報酬」に決めるとおりとする。
- 4 非常勤理事に対する報酬は、別紙別記1「非常勤理事の報酬」に定める額とする。
- 5 各々の監事の報酬額は、別紙「監事報酬」に決めるとおりとする。
- 6 個々の評議員の報酬は、別紙別記2「評議員の報酬」に定める額とする。

(費用弁償)

第5条 この法人は、役員及び評議員がその職務の執行に当たって負担した費用については、これを請求のあった日から遅滞なく支払うものとし、また前払いを要するものについては、前もって支払うことができるものとする。

- 2 常勤役員には、通勤に要する交通費として通勤手当を支給し、その計算法方法は通勤費

支給基準に準ずる。

3 役員及び評議員には、出張に要する旅費（宿泊費含む）を、出張旅費基準に準じて出張費として支給することができる。

（報酬等の支給日）

第6条 常勤役員の報酬等（旅費を除く。）は、毎月25日に支払うものとする。なお、支給日が土日、祝祭日にあたる場合は、前営業日に支払うものとする。

2 非常勤役員及び評議員の報酬等及び常勤役員の旅費は、必要の都度、支払うものとする。

（報酬等の支給方法）

第7条 報酬は、通貨をもって本人に支給又は支払うものとする。ただし、本人の同意を得れば本人の指定する本人名義の金融機関口座に振り込むことができるものとする。

2 報酬等は、法令の定めるところによる控除すべき金額及び本人から申し出のあった立替金等を控除して支給する。

（公表）

第8条 この法人は、この規定をもって、社会福祉法第59条に定める報酬等の支給の基準として公表する。

（改廃）

第9条 この規定の改廃は、評議員会の決議によって行う。

（補足）

第10条 この規定の実施に関し必要な事項は、理事長が評議員会の承認を経て、別に定めるものとする。

附則

1. この規定は平成29年6月28日（定時評議員会の議決日）から施行する。
2. 平成30年11月28日一部改正
3. 令和元年7月22日一部改正
4. 令和2年7月1日一部改正

報酬表

<理事報酬>

・常勤理事報酬（月額）

理事長・・・・・・・・ 900,000 円

業務執行理事・・・ 600,000 円

その他の理事・・・ 100,000 円

・職員兼務理事報酬（月額）

業務執行理事・・・ 300,000 円

その他の理事・・・ 100,000 円

<監事報酬>

定期的に監査を行う監事（月額） 0 円

理事会、評議員会出席の都度、謝金として一人一律 10,000 円に源泉所得税を加算した額

別記 1 非常勤理事の報酬

理事会、評議員会出席の都度、謝金として一人一律 10,000 円に源泉所得税を加算した額

別記 2 評議員の報酬

評議員会出席の都度、謝金として一人一律 10,000 円に源泉所得税を加算した額

*理事報酬については、経営状況（当期活動増減がマイナスなど）が赤字になった場合、見直しを行うこととする。